

自治体の課題、現状

本市では、15校の市立中学校で生徒数約5,800人のうち、39部活約1,100人が活動している。全体的に部活動数が少なく、学校によっては部活動自体がないため、多様な文化芸術の選択が難しい現状にある。団体種目の吹奏楽部では、人口減少に伴い単独でチーム編成ができない学校が生じている。また、令和8年度から全ての市立中学校において、部活動の任意加入制の導入を予定しており、部員数や所属率の更なる減少が想定されることから、多様な文化芸術を選択でき活動できる場の創出が必要である。

地域文化クラブ活動等の概要

|          |                    |            |                                     |
|----------|--------------------|------------|-------------------------------------|
| 中学校数     | 15校                | 全生徒数       | 5,780人                              |
| 域内の部活動数  | 39部                | 実施した地域クラブ数 | 6クラブ                                |
| 全体の指導者数  | 29人                | 全体の運営スタッフ数 | 7人                                  |
| 主な運営団体   | 文化芸術関係団体<br>民間事業者  |            |                                     |
| 主な種目     | 写真、美術、合唱、吹奏楽、囲碁、俳句 |            |                                     |
| 平均的な活動回数 | 2回/月               | 年間平均参加生徒実数 | 3年：1人/クラブ<br>2年：2人/クラブ<br>1年：4人/クラブ |
| 参加会費     | 1,000円/月           | 主な活動場所     | 公共施設                                |

地域移行関連の取組、成果

- 中学校にある部活動とない部活動を、それぞれ3活動ずつ実証事業を実施したことで、多様な選択肢を提供でき、活動の幅を広げることができた。
- 地元の山形大学吹奏楽団員を講師として起用することで、未経験の生徒も活動しやすい環境を作り、教育学部の学生にとっても生徒指導の機会を得られる有意義な活動となった。
- プロカメラマンの高度な技法を学びながら観光名所を撮影する活動を行った写真クラブや、山寺という特色を生かした俳句クラブなど、地域の魅力等も再発見できる機会を創出した。

運営体制図

